

[成果情報名] 水稻品種「にこまる」の奨励品種採用

[要約] 「にこまる」は「ヒノヒカリ」より出穂期が3日、成熟期が5日程度遅い晩生品種である。精玄米収量が多く、白未熟粒の発生が少ないため、外観品質に優れ、食味も良好であることから、奨励品種に採用する。

[キーワード] イネ、にこまる、奨励品種、和歌山県

[担当] 栽培部

[代表連絡先] 電話 0736-64-2300

[研究所名] 和歌山県農業試験場

[分類] 普及成果情報

[背景・ねらい]

和歌山県における米の検査等級は、ここ数年低く推移しており、その主な原因は夏期の高温による白未熟粒の発生である。水稻晩生品種でも、高温年には白未熟粒の発生による玄米品質の低下が問題となっている。そこで、高温登熟性に優れた高品質・良食味品種を選定し導入する。

[成果の内容・特徴]

水稻品種「にこまる」の特徴は「ヒノヒカリ」と比較した場合、以下のとおりである。

1. 出穂期が3日、成熟期で5日程度遅い晩生品種である（表1）。
2. 稈長は長く、穂長は同程度、穂数は少なく、耐倒伏性は同程度（表1）である。
3. 精玄米重は重く、千粒重も重い（表1）。
4. 外観品質は優れ、白未熟粒が少ない。穀粒判別器による整粒率は同程度（表2）である。
5. 食味官能調査では外観・味・総合評価に優れ、粘りがやや強く良食味である（表3）。
6. 現地試験では出穂が2～5日、成熟期で1～6日遅かった。精玄米重はバラツキが見られるが、おおむね同程度である。外観品質は優れるが、青未熟粒が多いため整粒率はやや低かった（表4）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：県内水稻生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：県北中部で普及予定面積は500ha
3. その他：
 - 1) 2017年2月24日に和歌山県奨励品種に採用。
 - 2) 「ヒノヒカリ」より発芽・苗の伸長が早いいため、苗を伸ばしすぎないように管理する。
 - 3) 出穂期・成熟期ともに「ヒノヒカリ」より遅いため、極端な遅植えを避け、登熟期の気温を確保する。
 - 4) 登熟期後半が低温になると青未熟粒の多発が予想されるので、適期収穫を心がける。
 - 5) 成熟期が遅いため、用水が確保できる圃場で作付けする。

[具体的データ]

表1 「にこまる」の生育および収量

品種名	移植期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	病害の発生程度			精玄米重 (kg/a)	同左比率 (%)	千粒重 (g)
								葉いもち	穂いもち	紋枯病			
にこまる	6.16	8.28	10.9	88.7	17.5	306	0.0	0.0	0.1	0.3	53.9	104	23.6
ヒノヒカリ	6.16	8.25	10.4	81.4	17.8	343	0.0	0.0	0.1	0.6	52.0	100	22.4

注) 2011年～2016年水稲奨励品種決定調査における平均値
 栽植密度16株/㎡、3本植、施肥量は窒素成分で8kg/10aを緩効性肥料で全量基肥施用
 倒伏程度、病害の発生程度は0(無)～5(甚)の6段階
 精玄米重、千粒重は1.8mmで篩い選した。水分15%換算値

表2 「にこまる」の品質

品種名	外観品質	白未熟粒					整粒率 (%)
		心白	乳白	基部未熟	背白	腹白	
にこまる	2.5	0.7	0.1	0.1	0.0	0.1	68.9
ヒノヒカリ	5.6	1.9	1.0	0.5	0.2	0.0	69.8

注) 2011年～2016年奨励品種決定調査における平均値
 外観品質は1(上・上)～9(下・下)の9段階で評価
 白未熟粒は0(無)～5(甚)の6段階で評価
 整粒率は精玄米を穀粒判別器ES1000(静岡製機)で測定

表3 「にこまる」の食味官能調査成績

品種名	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
にこまる	0.58	-0.05	0.20	0.27	-0.32	0.15

注) 食味官能調査は2013年～2015年の平均値
 ヒノヒカリを基準品種とし各項目とも0を基準とした。外観、香り、味、総合(かなり良+3～かなり不良-3)、粘り(かなり強い+3～かなり弱い-3)、硬さ(かなり硬い+3～かなり柔らかい-3)をそれぞれ7段階で評価

表4 「にこまる」の現地調査における成績

調査地	品種名	移植期 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	精玄 米重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒重 (g)	整粒率 (%)	外観 品質
	ヒノヒカリ(対)	6.8	8.25	10.4	90.4	18.9	411	0.7	57.2	100	22.1	70.4	6.5
紀の川市	にこまる	6.9	8.29	10.11	89.2	19.0	393	0.0	72.9	108	23.3	65.7	2.0
	ヒノヒカリ(対)	6.9	8.25	10.5	85.4	18.6	406	1.0	67.6	100	22.4	68.3	5.0
岩出市	にこまる	6.4	8.30	10.7	90.9	18.2	382	0.0	56.1	96	22.6	61.1	3.0
	ヒノヒカリ(対)	6.4	8.25	10.5	87.2	17.9	433	0.0	58.3	100	21.0	67.7	6.0

注) 調査期間は和歌山市は2012年～2014年。紀の川市、岩出市は2012年、2013年
 調査は表1～3の脚注に準ずる
 栽培は各農家の慣行により、一定ではない

(宮井良介)

[その他]

研究課題名：水稲奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2011～2016年度

研究担当者：宮井良介、川村和史、足立裕亮